

NEDO Challenge

for BLUE ECONOMY

「NEDO懸賞金活用型プログラム/広範囲な浅海における短時間
計測・観測システムの開発」

2次コンペティション応募説明会資料

NEDO Challenge for BLUE ECONOMY運営事務局

NEDO challenge

for BLUE ECONOMY

【NEDO 県営金活用型プログラム/広範囲な浅海における短時間
持続可能な海洋の観点からブルーカーボン産業や海洋産業の活性化への期待が大きい日本において
極めて重要な技術開発を目指すプログラムです。】

2次コンペティション応募説明会資料

【前提と要約】

- ・海中はあらゆる物理現象の減衰が激しく、特に浅海は外乱が多く広範囲な計測ともなると既存の技術の組み合わせでもなお、実現が難しい状況です。
- ・海洋付着生物（藻類等）あるいは船艇の付着生物という個体有機物を非破壊で計測・観測することも難易度を上げています。
- ・テーマ1 大型藻類の育成状況の把握・計測、テーマ2 船底付着生物の把握の2本立てで行います。
- ・コンペティションを通じて技術のブレークスルーを狙っており、異分野からの参入を歓迎します
- ・ブルーカーボン産業の創出、海洋産業発展の契機とすべく、入賞者には懸賞金（総額約4億円）と優勝者には技術の活用機会を用意しております。

Agenda

01 背景

02 2次コンペティションの公募概要

03 募集テーマ

04 スケジュール・応募方法等

05 お問い合わせ

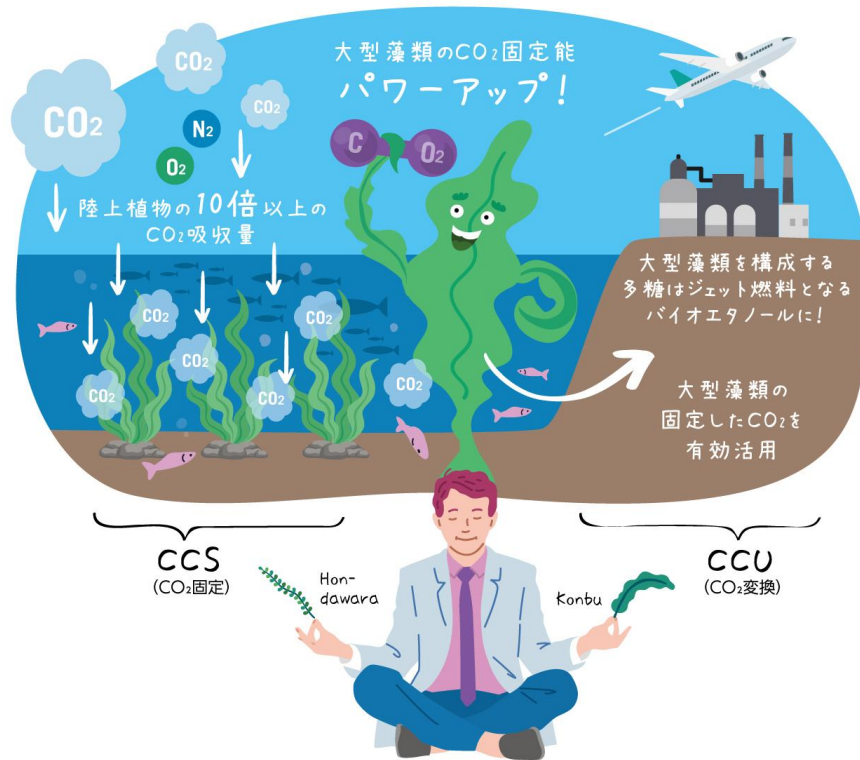
01

背景

ムーンショット事業名

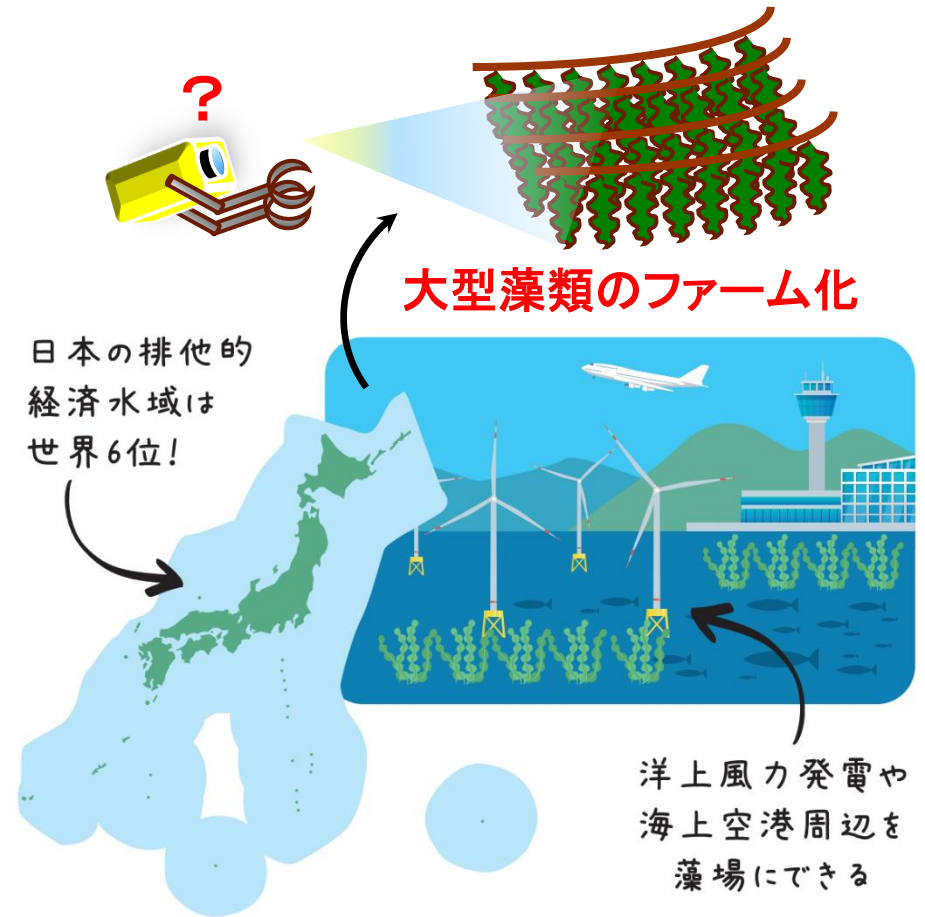
機能改良による高速CO₂固定大型藻類の創出とその利活用技術の開発

- CO₂の固定からエネルギーの生産まで海洋の褐藻が大活躍



CO₂固定能UP

養殖技術の確立



≫ 大型藻類の燃料で飛行機が飛ぶ!?

酵母の開発

バイオエタノール→SAF

海水中における計測・観測・通信は特有の難しさがあり、これらを解決するソリューションの提案を期待します。

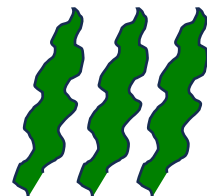
計測・観測方法

	既存の方法	メリット	限界・課題
空中	衛星	広範囲の把握に長けている	深さ方向が分かりづらい 画像取得に天候・頻度等の制約
海中	光学カメラ	形状・色等を判別しやすい	光の減衰による視認距離の短さ 濁りに弱い
	音響SONAR	濁りに強い	多重反射による精度の低下

通信方法

既存の方法	メリット	限界・課題
電波	(地上では、高速・高ビットレート)	減衰大・短距離
音波	長距離通信が可能	低速・低ビットレート (大容量データの通信に課題)
光	高速・高ビットレート (大容量化ポテンシャル)	短距離・指向性が強い 濁りに弱い

表：NEDO調べ・まとめによる



←測定対象物の不確実性

国内外の海洋を取り巻く状況調査の結果、テーマを決定

第4期海洋基本計画の重点政策である、持続可能な海洋の構築と防衛・安全保障を軸とし、調査トピックを分類したうえで国内外での海洋を取り巻く状況を整理。

海底資源 洋上風力発電設備 DOC ブルーカーボン 軍需

経済性の高いもの

日本特有のもの

日本でやるべきこと

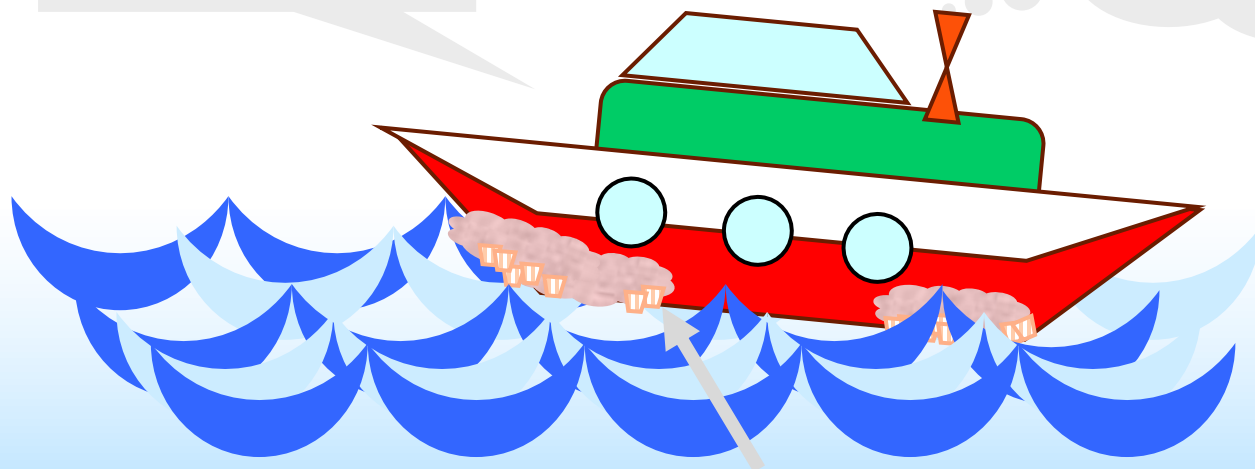
懸賞金事業で実施すべきテーマの抽出

テーマ	重要性(社会的意義)	経済性 (市場規模・ニーズ)	懸賞金事業で実施する意義
ブルー カーボン	カーボンニュートラルは世界共通課題であり重要性は高い	現時点の市場は小さいが将来的な市場拡大を見込める	日本は藻場が多く、計測技術も確立されていない
船底の 付着生物	環境保全(IMO 対策)・燃費改善のため、付着生物の点検・除去は重要である	燃費改善によるコスト削減効果が大きく、需要も拡大している	バイオフィルム段階で観測・除去可能か

NEDO懸賞金事業 海洋を取り巻く状況調査結果 PwC(2025/8/26)より作成

燃費が最大40%悪化

温室効果ガスの排出量が増加

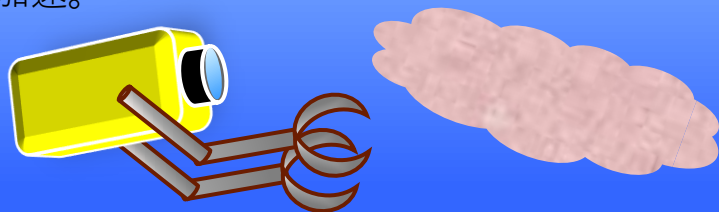


船体付着生物による外来種の拡散→生物多様性や経済に深刻な影響を及ぼすリスク

国際的な動向

国際海事機関（IMO）は2023年に船体付着生物管理ガイドラインを改訂、管理計画書、記録簿、防汚システム導入、定期的な水中検査・洗浄などを積極的に推奨。オーストラリア、ニュージーランド、米国カリフォルニア州などでも独自の厳格な規制が導入され、国際的な規制強化が加速。

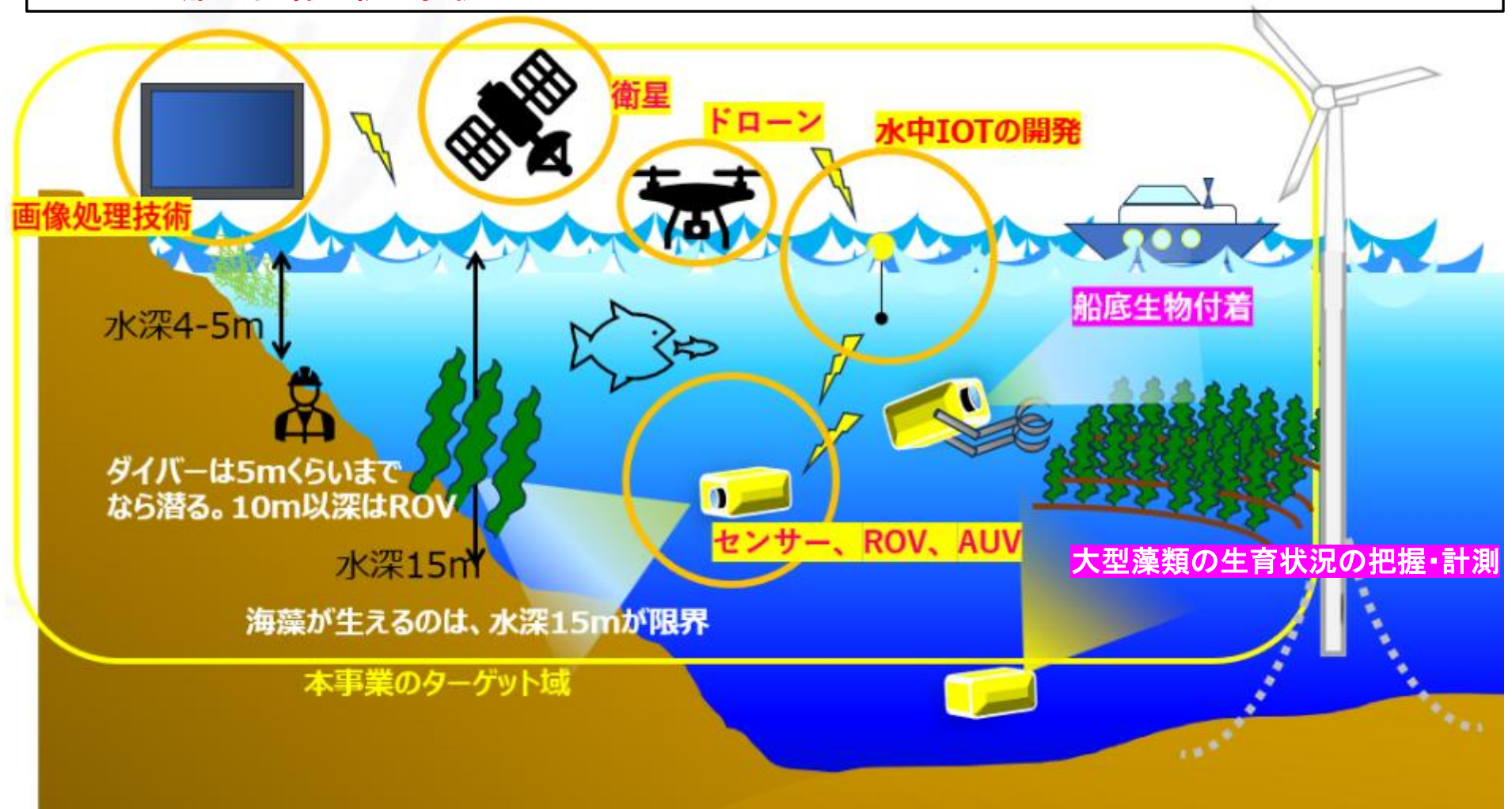
バイオフィアウリングの状態について計測・観測が必要



NEDO懸賞金事業：広範囲な浅海における短時間計測・観測システムの開発

テーマ1 大型藻類の育成状況の把握・計測

テーマ2 船底付着生物の把握



コンペティション全体



ブルーカーボン産業創出

マッチング

今回の公募

マッチング

2次コンペティション

2026年12月～2027年1月

平沢マリンセンタ・神戸港 (案)

複合技術

テーマ毎に設定された課題と
ルールに基づき競技を実施

1位

2位

3位

総合技術 (実測)

1位

2位

3位

いかに短時間で正解値に近い計測
ができたかで競技・賞金を授与

3次コンペティション 2027年10月周南予定 (案)

1次コンペティション

2026年5月平沢マリンセンタ

要素技術

テーマ／部門毎に設定された課題とルール
に基づき競技を実施

1位

2位

3位

学生賞

学生賞

周辺技術の醸成

海洋産業を盛り上げる
機会の創出

技術のブレークスルー

エントリー



開発者A：要素技術のみを有する企業、大学等



開発者B：総合的な研究開発力を持ち、海洋事業を構想、または販売をする企業



ユーザーは完成品を利活用する企業等、投資家や、商事系

1次コンペティション：会場

日時： 2026年5月11～15日実施済み

場所： 平沢マリンセンター 静岡県沼津市西浦平沢



平沢マリンセンターと平沢ダイビングエリアを上空から



出所：平沢マリンセンターWebサイト

【お車の方】

- 東名沼津ICもしくは新東名長泉沼津ICより約22km。約45分。
- 東名愛鷹SIC約24km。約50分。
- 東名沼津ICもしくは新東名長泉沼津ICより、伊豆縦貫道、伊豆中央道を経由、約31km。約40分。

【電車・バスをご利用の方】

JR沼津駅南口から東海バスオレンジシャトル、8番線大瀬行き「らららサンビーチ」下車。

	テーマ1 大型藻類の育成状況の把握・計測	テーマ2 船底付着生物の把握
部門1 1,2共通	水中ロボットの外乱制御 AUV、ROV等の水中ロボットが、外乱の影響を受けずに素早く広範囲の計測ができるかを競技します。	
部門2 1,2共通	水中における自己位置把握 水中ロボットが水中でいかに正確な位置情報を取得できるかを競技します。	
部門3	藻類の計測・解析技術 養殖場における大型藻類の体積・湿重量を計測・推定する競技を行います。	—
部門4	自由技術部門 - 部門1～部門3に該当しない、養殖場における大型藻類の生育状況のモニタリングに資する革新的な技術を募ります。 - 既存の技術/システムでは解決されない課題に対して、その課題を解決する技術ソリューションを募ります。 - 提案書指定フォーマットに課題と課題に対する解決策をセットで記載ください。	—
部門5	—	船底マッピング・船底状態の把握 船底の全体像をマッピングし、その船底の状態をいかに早く正確に計測できるかを競技します。

1次コンペティション

テーマ1 大型藻類の育成状況の把握・計測	
部門1	水中ロボットの外乱制御
1,2共通	AUV、ROV等の水中ロボットが、外乱の影響を受け
部門2	水中における自己位置把握
1,2共通	水中ロボットが水中でいかに正確な位置情報を取得
部門3	藻類の計測・解析技術
	養殖場における大型藻類の体積・湿重量を計測・推定する競技を行います。
部門4	自由技術部門
	- 部門1～部門3に該当しない、養殖場における大型藻類の生育状況のモニタリングに資する革新的な技術を募ります。 - 既存の技術/システムでは解決されない課題に対して、その課題を解決する技術ソリューションを募ります。 - 提案書指定フォーマットに課題と課題に対する解決策をセットで記載ください。
部門5	—

部門1水中ロボットの外乱制御			
順位	提案名称	代表法人名/代表者名	懸賞金
1位	クアッドコプタ型 ROV における外乱下での安定画像取得を目的とした制御手法の検討	小高 健幹	200 万円
2位	AI 認識・制御を用いた外乱耐性型ハイブリッド AUV の操縦補助技術の開発	BlueArch 株式会社	150 万円
3位	浅海域ブルーカーボン観測を実用化する簡易自己位置推定型 ASV-ROV 統合システム	夢想科学株式会社	100 万円

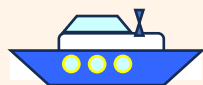
部門2水中における自己位置把握			
順位	提案名称	代表法人名/代表者名	懸賞金
1位	新たな音響測位技術の活用による水中無人機の高精度な自己位置算出および YAW 角算出を実現したシステム	株式会社 YDK テクノロジーズ	200 万円
2位	多重反射環境でも測位可能な水中音響測位装置「そこにイルカ®」のコストダウン版の開発	あおみ建設株式会社	150 万円
3位	軽量片道 LBL を用いた ROV の高精度位置計測	株式会社ディープ・リッジ・テク	50 万円
3位	水空合体ドローンの水中ドローンにおける自己位置把握	KDDI 株式会社	50 万円

部門3藻類の計測・解析技術			
順位	提案名称	代表法人名/代表者名	懸賞金
1位	グリーンレーザーとドローン(UAV)を用いた大型藻類の計測・解析	豊田通商株式会社	350 万円
2位	三体連携・藻体 3D 統合計測法 (UAV/ASV/AUV 同時点群融合)	株式会社エイト日本技術開発	250 万円
3位	水上・水中両用ドローン (USSV) と空中ドローン (UAV) のハイブリッド運用による海藻養殖場の自動計測システムの開発	復建調査設計株式会社	100 万円

部門4自由技術部門			
順位	提案名称	代表法人名/代表者名	懸賞金
1位	Adaptive AI モデルと全方位ソナー搭載型ドローンによる大型藻類の効率的な計測	国立大学法人東京大学	200 万円
2位	ドローン×人工衛星による藻場・海面養殖施設の短時間・広域観測システム開発	学校法人北里研究所	150 万円
3位	海中電波通信による UUV 撮影動画と位置情報のリアルタイム伝送による大型藻類の生育状況把握	国立大学法人九州工業大学	100 万円

	テーマ1 大型藻類の育成状況の把握・計測	テーマ2 船底付着生物の把握
部門1 1,2共通	水中ロボットの外乱制御 AUV、ROV等の水中ロボットが、外乱の影響を受けずに素早く広範囲の計測ができるかを競技します。	
部門2 1,2共通		
部門3	藻類の計測・解析技術 養殖場における大型藻類の体積・湿重量を計測・推定する競技を行います。	—
部門4	自由技術部門 - 部門1～部門3に該当しない、養殖場における大型藻類の生育状況のモニタリングに資する革新的な技術を募ります。 - 既存の技術/システムでは解決されない課題に対して、その課題を解決する技術ソリューションを募ります。 - 提案書指定フォーマットに課題と課題に対する解決策をセットで記載ください。	—

部門5船底マッピング・船底状態の把握



順位	提案名称	代表法人名/代表者名	懸賞金
1位	狭隘環境を潜航可能な船底検査ロボットの開発	株式会社 MizLinX	200 万円
2位	新たな音響測位技術の活用による水中無人機の高精度な自己位置算出および YAW 角算出を実現したシステム	株式会社 YDK テクノロジーズ	150 万円
3位	高精度船底検査アルゴリズム開発	ヤマハ発動機株式会社	100 万円

船底マッピング・船底状態の把握

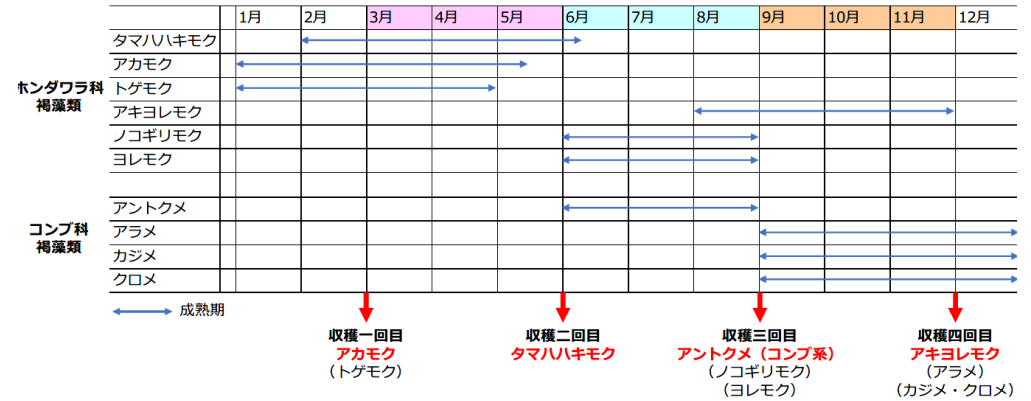
船底の全体像をマッピングし、その船底の状態をいかに早く正確に計測できるかを競技します。

懸賞金コンペティション 全体スケジュール(案)

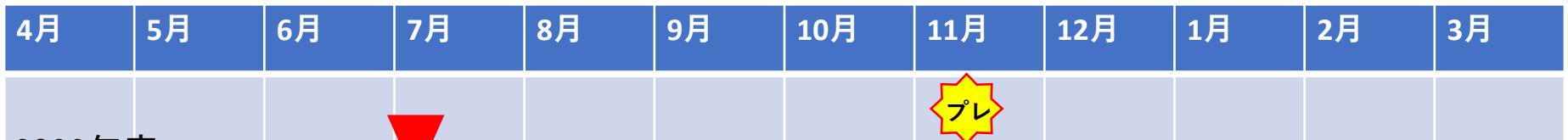
大型藻類養殖の年間生産スケジュール

通年での生産（CO₂吸収・固定）が可能

コンブ、ワカメ、ヒジキは食用の藻類であるため除外した



2025年度



2026年度



2027年度



我々NEDOにおけるムーンショット事業(内閣府:目標4)では、大気中の比較的薄いCO₂を吸収固定・利活用する技術開発を行うことで、クリーンなエネルギー開発と環境問題の解決の両立を目指しています。この懸賞金プロジェクトは、その研究過程で生じた浅海の計測・観測のニーズに始まります。大型藻類の巨大なファームを素早く正確に計測・観測できる技術の開発を求めます。

NEDOは、深掘した調査結果より、海洋環境および生物多様性の保全についても我が国が喫緊に取り組まなければならない課題の1つと認識し、国際海事機関(IMO)において、船体に付着した生物の越境移動による生態系破壊の防止について議論されていることから、船体付着生物の管理に関するガイドラインの策定を念頭においた計測・観測ニーズにこたえる技術の開発を求めます。

企業様同士のマッチングや技術の競争によるブレークスルーや、海洋産業の活性化を期待しています。

今回は2次コンペティションであり、ある程度の複合技術としての応募者を募集しています。

もし、**特異**の要素技術をお持ちで参加のご希望がある場合は、マッチングの可否について事務局までご相談ください。

備考：NEDO HP（受賞者一覧）・特設サイト・ライブ映像

受賞者一覧：<https://www.nedo.go.jp/content/800056941.pdf>

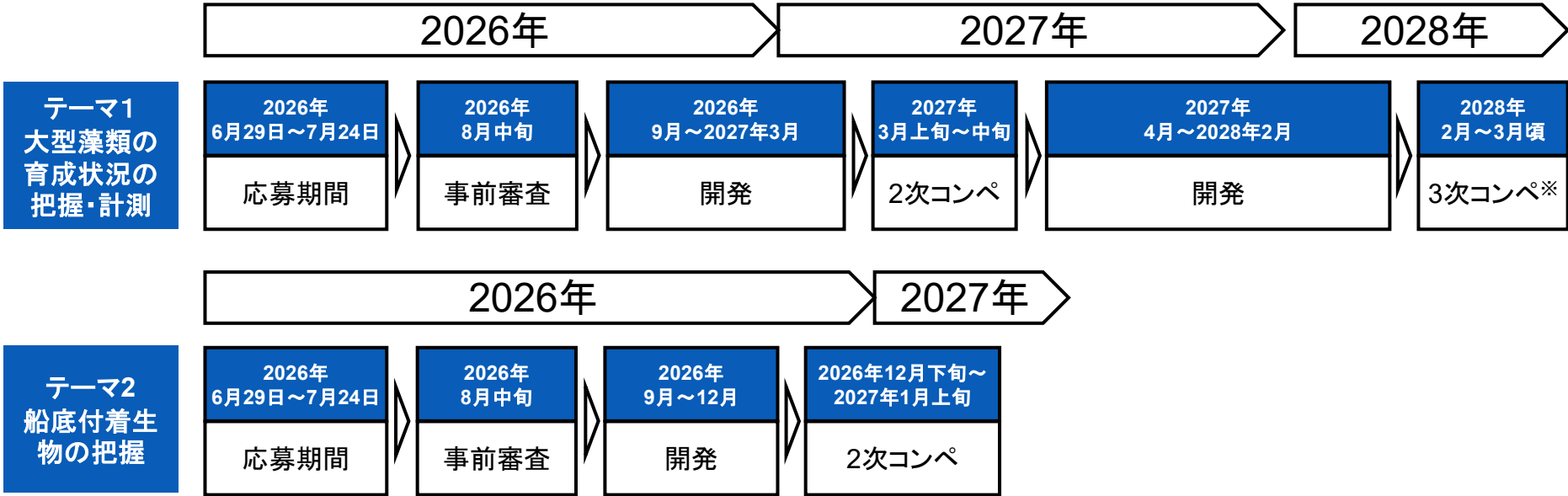
特設サイト：<https://blue-economy-challenge.nedo.go.jp/>

1次コンペ：https://www.youtube.com/@nedo_channel/streams

02

2次コンペティ ションの公募概要

全体スケジュール(2次コンペティション以降)



※テーマ1「大型藻類の育成状況の把握・計測」のみ3次コンペティションまで実施します

2次コンペティションの応募概要

応募期間

応募開始日: 2026年6月29日

締め切り日: 2026年7月24日 13:00

受付方法

本応募は、受付フォームのみで受け付けます。

提出先

以下公式サイト上の受付フォームから提出ください。

<https://blue-economy-challenge.nedo.go.jp/>

問い合わせ先

NEDO Challenge for BLUE ECONOMY 運営事務局

メール: info@blue-economy-challenge.jp

(本事業全般に関するお問い合わせ)

03

募集テーマ

2次コンペティションの募集テーマ

テーマ1 「大型藻類の育成 状況の把握・計測」

CO₂固定能力の高い大型藻類の養殖や利活用に向け、広範囲かつ高精度で育成状況をモニタリングする技術を募集します。

テーマ2 「船底付着生物の 把握」

船舶を介した生物の越境移動防止や、船底点検・清掃の自動化に向け、船底状態のマッピング・付着生物の把握技術を募集します。

テーマ説明 テーマ1：大型藻類の育成状況の把握・計測（1/3）

背景

内閣府・ムーンショット型研究開発事業の「目標4:2050年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現」のもとで、「機能改良による高速CO₂固定大型藻類の創出とその利活用技術の開発」が推進されており、CO₂固定能力の高い大型藻類の開発、藻類をバイオエタノールに変換する技術開発、大型藻類の養殖技術の開発に取り組まれています。将来的に数十ha規模の養殖場の導入を想定しており、養殖にあたっては大型藻類の育成状況を把握する必要がありますが、広範囲の養殖場の大型藻類を短時間で精度よく計測・観測するための技術は確立していません。

1次コンペティションでは、水中ロボットの外乱制御、自己位置推定、および大型藻類の育成状況の把握に関する要素技術の評価を部門ごとに実施しました。2次コンペティションでは、これらの要素技術を統合し、実際の養殖環境を想定したフィールドにおいて、水中ロボット等を用いた大型藻類の育成状況の把握・計測を実施します。具体的には、潮流等の外乱が存在する環境下で大型藻類に対して様々な計測手法を駆使し、湿重量の推定を行うことで、ブルーカーボン創出に資する大型藻類育成の合理的な管理技術を開発することを目的とします。

課題説明

大型藻類の養殖において、育成状況の把握や大型藻類の収量およびCO₂の固定量を把握することが重要です。本部門では、養殖用のロープに養殖された大型藻類（ホンダワラ類またはコンブ類）をUAV、ASV、AUV、ROV等の空中・水中・水上ロボットに搭載した光学カメラやソナー等のセンサや、固定式のセンサ等で計測し、さらにその計測結果を解析することで、大型藻類の体積・湿重量を推定し、その正確性を競うことを予定しています。

本コンペティションでは3次コンペティションまでに、1ヘクタール規模で育成する大型藻類を高精度に計測・観測するシステムの開発を目指していただきます。

テーマ説明 テーマ 1：大型藻類の育成状況の把握・計測（2/3）

競技概要	計測対象	大型藻類(アカモクを予定) ※大型藻類を固定した長さ数十mのロープを複数本、5m程度の間隔で設置予定です。 設置方法は延縄方式を予定しています。1次コンペティションのような木枠は設置しません。
	競技実施場所	平沢マリンセンター(予定)
	競技実施時期	2027年3月
	競技内容	● アセスメント審査(実施検討中) ● 2次コンペティションの期間中に、ハードウェア/ソフトウェアの詳細設計の確認、動作試験を行い、競技に参加可能な開発状況であるかを審査する場合があります。2次コンペティションへの競技参加が困難と判断した場合には、実海域競技への参加を認めないことがあります。 ● 実海域競技 ● 2次コンペティションでは、外乱制御・自己位置計測・大型藻類の3次元計測の要素技術を統合し、3次コンペティションを想定した養殖ロープで、大型藻類の湿重量及び育成状況を把握する競技を実施予定です。 ● 1次コンペティションよりも難易度を上げ、複数の養殖ロープを対象に固定されたすべての大型藻類を対象に湿重量の合計値を解析していただきます。 ● 大型藻類や養殖ロープを傷つけるような運用は禁止とします。

テーマ説明 テーマ1：大型藻類の育成状況の把握・計測（3/3）

競技概要

審査方法

- 藻類の湿重量を事務局で計測し、正解データを準備します。正解データと競技者の計測値の重量差で順位を決定します。
- 湿重量は一定の誤差範囲に収まったチームのみ受賞対象とすることを検討中です。AUV、ASV、ROV、USV等の機体種別ごとに競技ルール・審査方法を設定して競技を実施する場合があります。

応募例

以下の要素技術やロボット・センサの正確な位置情報を把握する技術、水中ロボットの外乱制御技術を統合し、複合技術で大型藻類の湿重量計測が可能なシステムを提案してください。

- 光学カメラによる3次元計測
- ソナーを用いた形状の計測
- レーザーを活用した点群データ取得
- フォトグラメトリ等による3次元解析技術
- 複数台・複数種のロボット（UAV、ASV、ROV、AUV等）や様々なセンサを組み合わせた固定式IoTセンサによる大型藻類の湿重量の計測・推定技術
- その他、手段を問わない湿重量の計測・解析技術

※大型藻類の計測にあたり、ロボット・センサの正確な位置情報を把握する技術、水中ロボットの外乱制御技術を統合した技術を提案してください。

応募者への期待

- 潮流や濁りのある実海域で動体である大型藻類の現存量（本コンペティションでの対象は湿重量）を正確に把握することは技術的な難易度が高いですが、複数の事業者が連携し、自己位置推定や外乱制御等、1次コンペティションで競技対象となった要素技術を組み合わせたロボットの技術開発や、様々な計測・解析技術を複数組み合わせることで、新たな計測技術の確立に向けたチャレンジングな提案を期待します。
- 将来的に実海域で大規模に実施される大型藻類の育成システムで、正確かつ機動的な計測、管理に有効な技術を期待します。

テーマ説明 テーマ2：船底付着生物の把握（1/2）

背景

異なる海域における船舶を媒介した海洋生物の越境移動により、海洋生態系への影響が近年問題として取り上げられており、国際海事機関(IMO)では、海洋生物の流入出を防ぐための管理ガイドラインが策定されており、防汚システムの導入とメンテナンス、検査および清掃等が推奨されています。米国カリフォルニア州やニュージーランド、オーストラリアにおいては、バイオフィウリングの管理が義務化されており、IMOにおいても船体付着生物(バイオフィウリング)管理に係る法的枠組みの検討が今後の課題となっています。また、日本においては船底の点検作業を潜水士が行っていますが、潜水士の高齢化等による人手不足の問題や、危険を伴う作業の事故リスクがあることから、点検・清掃作業の無人化・自動化のニーズが年々高まっています。

1次コンペティションでは、水中ロボットの外乱制御や自己位置推定、マイクロファウリング(※バイオフィルム)有無判定といった要素技術の評価を行いました。2次コンペティションでは、これらの要素技術を統合し、実際の船底点検作業を想定した実環境下において、水中ロボットによる船底のバイオフィウリングの状態把握を実施します。潜水士に代わり水中ロボットが自律的に船底を航行し、バイオフィウリングの分布状況を網羅的に把握・記録することで、安全かつ効率的な船底点検の実現可能性を検証することを目的とします。

課題説明

船底の点検・清掃作業においては、バイオフィウリングが定着する前の、初期的な状態でメンテナンスすることが重要です。船底の清掃が必要な箇所を判断したり、清掃後の効果を判定したりするためには、船底の状態をサーベイすることでバイオフィウリングの分布とその付着レベルを確認する必要があります。

本テーマにおいては、中型船舶以上を対象に、AUVやROV等の水中ロボットを用いて、船底およびその周辺の没水部点検し、バイオフィウリングの分布・レベルを把握・記録する競技を予定しています。

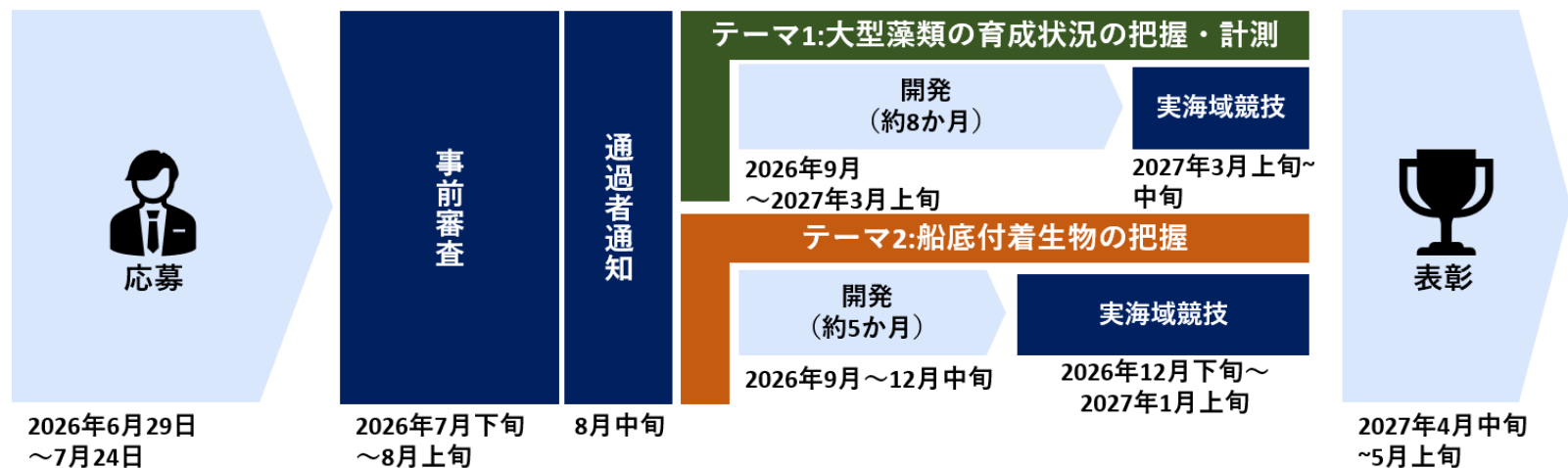
テーマ説明 テーマ2：船底付着生物の把握（2/2）

競技概要	計測対象	岸壁に係留された中型船舶(60-100m)の船底
	実施場所	神戸港(予定)
	実施時期	2026年12月下旬～2027年1月上旬
	競技内容	● アセスメント審査(実施検討中) ・ 2次コンペティションの期間中に、ハードウェア/ソフトウェアの詳細設計の確認、動作試験を行い、競技に参加可能な開発状況であるかを審査する場合があります。2次コンペティションへの競技参加が困難と判断した場合には、実海域競技への参加を認めないことがあります。 ● 実海域競技 ・ 船底点検競技を実施し、バイオフィウリング付着の計測結果をプレゼンテーションで報告していただきます。 ・ 競技時間は1時間程度を想定しています。 ・ 2次コンペティションでは船舶の船底(没水部全体、一部接近禁止エリアを除く)を競技対象としますが、詳細な計測範囲は今後コンペティション出場者へご案内します。 ・ 船底を傷つける、または、船底塗料等を剥がす行為は禁止とします。
	審査方法	・ 実海域競技の報告・プレゼンテーションに基づき評価します ・ 技術単体・社会実装性等について多面的に評価します ・ 水中ロボットの自律性能は加点要素とします

04

スケジュール・応募 方法等

2次コンペディションのスケジュール



項目	スケジュール
公募期間	2026年6月29日（月）～7月24日（金） 13:00
マッチング	～7月23日（木）
事前審査	2026年7月下旬～2026年8月上旬（予定）
審査結果	2026年8月中旬（予定）
開発、メンタリング期間：テーマ1	2026年9月～2027年3月上旬
一次コンペティション：テーマ1	2027年3月上旬～中旬
受賞者決定：テーマ1	2027年4月中旬（予定）
開発、メンタリング期間：テーマ2	2026年9月～2026年12月中旬（予定）
一次コンペティション：テーマ2	2026年12月下旬～2027年1月上旬（予定）
受賞者決定：テーマ2	2027年1月下旬（予定）
表彰式	2027年4月中旬～5月上旬（予定）
懸賞金交付	2027年5月末（予定）

2次コンペティションの応募対象者

2次コンペティションへの応募対象者は、下図のC、Dに該当する新規応募者です。
(A、Bに該当するチームはシード権があるため、応募不要です)

	2次コンペティション参加希望者	応募の要否	審査内容
A	1次コンペティション上位入賞者（以下、上位入賞者とする）のチーム単独 - 上位入賞者同士の混成チーム	応募不要	対象外
B	上位入賞者と新規参加者※1の混成チーム ※新規応募者は外注先としての役割を担う場合（研究開発要素なし）		
C	上位入賞者と新規参加者※1の混成チーム ※新規参加者も主体的に研究開発を担う場合（研究開発要素あり）	新規参加者のみ応募が必要	新規応募者の有する技術とチーム内でのどのような役割を担い、研究開発を行うかをプレゼンで審査
D	新規参加者のみのチーム	応募が必要	チーム全体の保有技術と開発内容をプレゼンで審査

※1「新規参加者」：1次コンペティション応募者、上位入賞チームを除く1次コンペティション競技参加者、2次コンペティションから新たに参加を希望する者

事前提出物と審査方法

事前提出物

1. 応募申請書（様式1～様式3）
※指定された様式以外での応募は認められません。
2. プレゼンテーション資料（形式自由）

審査方法

プレゼンテーション審査

- 説明10分
- 質疑10分程度

※審査の候補日程は後日お知らせしますので、ご予約の確保をお願いします。

2次事前審査の審査項目・内容

5つの審査項目に基づき、有識者による事前審査（プレゼン審査）を行います。事前審査を通過した方は2次コンペティションに参加いただきます。

審査項目	内容
(1)開発する技術の有効性	- 開発しようとする技術の性能・精度は既存技術を超え十分に高いレベルにあるか。 - 開発しようとする技術は自律化・自動化が期待できるか
(2)開発する技術の実現性	2次コンペティションまでに技術開発を完了できる見込みがあるか - 実海域でのオペレーションが可能であるか
(3)開発する技術の独創性	- これまでにない新しい技術であるか - 既存の技術と比べ優位であるか - 海中計測に用いられてこなかった技術であるか
(4)開発する技術の発展性	- 技術の改良を進めることで技術の発展、性能向上が見込まれる技術であるか。（市場の見通し、勝ち筋が見えているか） - 当該技術がブルーカーボン産業／海洋産業の発展に貢献するか
(5)技術開発の実績	2次コンペティションの参加にあたり、一定の技術開発を進めており、1次コンペティションで開発を進めた上位入賞者の技術と遜色ない技術開発の実績を十分有しているか - 実環境下で競技を完走できるだけの機能を有しているか（スタートポイントへの移動、潮流への対応、位置計測、大型藻類の存在下での航行、太陽光下でのUAVの計測など）

プレゼンテーションで説明すべき内容(1/2)

プレゼンテーション資料は審査項目を意識して作成してください。

提案書の記載項目	内容
開発する技術の目的・目標	本提案で開発する技術について、以下の4点を説明してください。 ・ 目的(どのような用途で活用するために開発するのか) ・ 最終目標(2次コンペティションの開発目標ではなく、最終的に実装したい技術) ・ 開発した技術が選択したテーマ(大型藻類計測、船底計測)に具体的にどう貢献するか ・ 最終目標の達成により、開発する技術がもたらす産業・社会へのインパクト
開発する技術の内容	2次コンペティションに向けて開発する技術の内容を詳細に説明してください。開発する技術について、動作機構・原理・手法等を含めた詳細を説明してください。 例: 開発するロボット等のスペック及び自己位置推定や外乱制御方法、計測に用いる具体的なセンサ・取得するデータ・データ解析方法 等 以下の5点も説明に盛り込んでください。 ・ 最終目標に対し、2次コンペティションではどこまでの技術を開発するのか ・ 開発する技術の有効性の説明 ※審査基準(1)を参照してください。 ・ 開発する技術の実現性の説明 ※審査基準(2)を参照してください。 ・ 開発する技術の独創性の説明 ※審査基準(3)を参照してください。 ・ 開発する技術の発展性の説明 ※審査基準(4)を参照してください。
技術開発の実績	2次コンペティションの参加にあたり、提案時点で2. の技術開発にあたり、一定の技術を有しているのか、どこまで開発が完了しているかを説明してください。1次コンペティションで開発を進めた上位入賞者の技術と遜色ない技術開発の実績を十分有していることが、審査基準(5)となっています。

プレゼンテーションで説明すべき内容(2/2)

プレゼンテーション資料は審査項目を意識して作成してください。

提案書の記載項目	内容
技術開発の経済性	技術開発の経済性について、以下の項目例の通り現時点で想定しているコスト・時間を説明してください。 ・ 2次コンペ開発品のコスト見込み ・ 最終製品目標のコスト見込み ・ オペレーションコスト ・ 準備時間にどの程度の時間を要するか
実施スケジュール	2次書類審査通過後(2026年9月)から2次コンペティションまでの開発スケジュールを必ずプレゼンテーション資料に記載してください。線表を用いて開発項目ごとにマイルストーンが分かるように示していただくとともに、各開発項目の内容をご説明ください。 当該期間にどのような取り組みを行う予定であるか、ご自身の提案の中で補強すべき事項があれば、どのような活動を行い補強するかについても説明してください。
2次コンペティションから参加する理由	1次コンペティションには応募せず、2次コンペティションに初めて応募する方は、2次コンペティションから参加した理由を教えてください。

応募時の注意事項

応募の際は以下の注意事項を確認のうえ、提出をお願いします。

注意事項

- 新規開発だけでなく、既存システムの機能性向上等を目指すもの、あるいは、既存システムを組み合わせ新たな付加価値を創出するものも対象とします。
- スタートアップ等については、機関投資家等から資金調達を行っている場合であっても応募が可能です。
- 事業管理上、NEDOの必要とする措置を適切に遂行できる必要があります。
- 当事務局が不適切と認めた場合や本事業に関する要件等に違反または不正があった場合には、事務局の判断により応募資格取り消しまたは審査結果の全部または一部について取り消しを行うことがあります。
- 1応募者からの2つへのテーマへの応募は可とします。ただし、2テーマともに2次コンペティションの競技に進むことになった場合にも、開発のリソースを確保できることを前提とします

2次事前審査通過者へ向けた支援

本プログラムにおいて、通過者に対して、研究開発促進に向けた以下の支援策を開発期間中に実施します。

支援策	コンテンツ
試験環境の提供	開発期間中に日にちを指定した上で、無償で海洋実環境を提供する。
広報機会の提供	書類審査通過者の専用サイトにおける公表等により、信用・信頼度、技術力、ブランド価値の向上につなげる。
メンタリングの提供	2次事前審査通過者に対して、各応募者の課題・状況に応じた伴走支援を月1回程度（希望制）行う。
ネットワーキング機会の提供	2次事前審査通過者に対して、専門分野の有識者や他の周辺分野技術者、他の参加者等とのネットワーキングの機会を提供することで、研究開発アイデアの創出および継続的な共同研究促進を図る
ワークショップ	研究開発期間中に今後事業化を踏まえた、有識者からの知見提供、アドバイス、フィードバックと参加者同士の議論の場を提供することで研究開発を加速させ、課題解決の可能性が高まる。

2次コンペティションの懸賞金額

テーマ	懸賞金額
テーマ1: 大型藻類の育成状況の把握・計測	1位: 3,000万円 2位: 2,000万円 3位: 1,000万円 学生賞: 300万円
テーマ2: 船底付着生物の把握	1位: 2,000万円 2位: 1,400万円 3位: 600万円 学生賞: 200万円

05

お問い合わせ

お問い合わせ

質問事項がある場合は、公式Webサイトの「よくあるお問い合わせ」をご参照ください。
その他のお問い合わせは事務局までメールにてお問い合わせください。

問合せ先: NEDO Challenge for BLUE ECONOMY運営事務
info@blue-economy-challenge.jp

受付期限: 2026年7月17日(金) 正午迄

※連絡の際は、メールの件名に必ず「問い合わせ(NEDO Challenge)」と記載し、本文に「所属団体名」、「担当者名」、「メールアドレス」を明記ください。

よくあるお問い合わせ(例)

海外の機関も応募可能か。

海外の機関の応募は不可となります。応募対象は日本国内のグループ・法人です。個人で応募する場合は日本国籍を有していることを応募の要件とします。

他のNEDO案件と並行して応募可能か。

全く同一の内容でなければ、応募可能です。

受賞できなかった場合は、一切金銭的な補助はないのか。

金銭的な補助はございません。

開発期間中に事業化/利益化してもよいのか。

開発期間中に事業化/利益化しても構いません。